

フランソワ・トリュフォー／盗まれた肖像（1993）

FRANCOIS TRUFFAUT: PORTRAITS VOLES

メディア 映画

ジャンル ドキュメンタリー

製作国 フランス

時間 93分

初公開日 1995/01

公開情報 コムストック

【解説】

“アントワーヌ・ドワネル”シリーズという、かなり私映画的な連作をものしているF・トリュフォーだから、映画ファンにその賛否両論に富んだ52年の生涯のあらまはなじみ深いものがあるが、これは彼の死後10年以上経て、努めて客観的な姿勢で作られた、その人生と作品の回顧録。

“政略結婚”と言われる、有名プロデューサーの愛娘の前夫人との結婚生活を、夫人本人が淡々と回想するのと対称的に、最後の愛人だった女優ファニー・アルダンはいきいきとまた愛おしげに、彼の演出の魅力を語る。その振幅に“人間トリュフォー”が存在する。同じヌーヴェル・ヴァーグの仲間でも、彼の伝統的手法への回帰を辛辣に批判する、脚本家ジャン＝ルイ・リシャールがいる。また、彼と極端に立場を違える監督ベルトラン・タヴェルニエは、“フランス映画の墓掘り人”と呼ばれた彼の筆禍事件について、いささかいやらしい意見を吐く。だが、全体を観て再認識出来るのは、トリュフォーの映画の持つ、人生を愛する態度の率直さであり、そこには当然のごとく「緑色の部屋」にみられたような“死への畏れ”も汲める。それを飾らぬ言葉で端的に言い表すのは、これまた、一聴すると対照的に思える二人の彼の娘の発言で、おっとりした姉は、父の包容力のあるユーモアを懐かしく思い起こし、シャープな印象の妹は、父の生涯を通じての“反逆児”的態度を羨望の眼差しを持って賞讃する。単純な話だが、この両者をかけ合わせると、トリュフォーの“肖像”にも焦点が合ってきて、そこが大変面白い。

【クレジット】

監督	セルジュ・トゥビアナ ミシェル・パスカル	Serge Toubiana
製作	モニック・アノー	Monique Annaud
撮影	モーリス・フェルー ジェン＝イヴ・ル・ムネ ミシェル・スリュウ	Maurice Fellous
音楽	ヨーゼフ・ハイドン	
出演	フランソワ・トリュフォー ファニー・アルダン ナタリー・バイ クロード・シャブロール ジェラルド・ドパルデュー エリック・ロメール マリー＝フランス・ピジエ アルフレッド・ヒッチコック ジャン＝リュック・ゴダール	Francois Truffaut Fanny Ardant Nathalie Baye Claude Chabrol Gerard Depardieu Eric Rohmer Marie-France Pisier Alfred Hitchcock Jean-Luc Godard